

佐賀県研究成果情報

カンキツかいよう病防除における抗生物質剤の予防散布の重要性					
〔要約〕カンキツかいよう病の防除で使用する抗生物質剤は感染前の散布では高い効果を示すが、感染後散布の効果は低いことから、 <u>予防剤として用いることが重要である。散布は台風襲来3日以内とする。</u>					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275	
部会名	果樹	専門	果樹病害	対象	カンキツ

〔背景・ねらい〕

カンキツかいよう病防除では台風襲来時の防除が重要であり、防除薬剤として銅剤やストレプトマイシン等を含んだ抗生物質剤が用いられる。抗生物質剤には治療効果があると明記されていることから、これまでの防除指導では台風襲来後の防除剤として利用されることがあったが、その効果に疑問がもたれることから、接種試験により抗生物質剤の感染後散布の効果を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 抗生物質剤は感染前の予防散布剤として用いると高い効果を示すが、感染後の散布での効果はほとんどない。(表1)
- 2 抗生物質剤を台風襲来後に用いても防除効果はほとんどないことから、台風襲来前に散布を行うこと。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 抗生物質を用いた場合、接種1日前、3日前の散布では高い防除効果を示すが、5日前の散布での効果が著しく低下することから、台風の襲来が予想される3日以内に散布を実施する。
- 2 カンキツかいよう病の防除において、台風襲来時の防除はあくまでも補完的なものである。最も重要なのは発芽前～梅雨期までの生育期前半の防除であり、この時期の薬剤散布を徹底し伝染源の密度を低下させておく必要がある。

[具体的なデータ]

表1 カンキツかいよう病に対する抗生物質剤の防除効果

区 供 試 薬 剤	倍数(倍)	発病箇所率(%)			経費 (円/100)
		接種 3日前 散布	接種 1日前 散布	接種 1日後 散布	
1 アグリマイシン100 (オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン)	1,000	5.5 (92)	1.3 (98)	65.0 (10)	600
2 アグリマイシン20 (ストレプトマイシン)	1,000	7.0 (90)	1.7 (98)	64.0 (12)	500
3 コサイドDF (クレフノン200倍加用) (無機銅)	2,000	-	5.2 (93)	63.0 (13)	192
4 無 散 布		72.4			

[その他]

研究課題名：カンキツかいよう病の効率的防除対策の確立

予算区分：県単

研究期間：2003年～2005年

研究担当者：井手洋一、田代暢哉、近藤知弥

発表論文等：2005年度 佐賀県果樹試験場業務年報 印刷中、2005年